共に考える住宅デザイン

○41○

甲斐　徹郎

微気候

樹木の冷却効果活用

備瀬に学ぶ住環境

三年前に沖縄の本部町備瀬という集落を訪ねたときの話です。

備瀬に近づくとこんもりとした森が見えてきました。この辺りが備瀬の集落かな?と、その森の中に入って、びっくり。私が森だと思っていたものは、実は、一軒一軒の生け垣だったのです。フクギの生け垣で四方を囲んだおよそ三百軒の家々が碁盤の目のように並び、その緑が延々と連なって森のように見えたのです。

まるで森の中に各家々が点在しているかのように見える備瀬の環境は、ここの住人に豊かな恵みをもたらしています。そのひとつは、連なった生け垣が見事な防風林の役目を果たし、台風の猛威から家を守っていることです。また、この防風林は、畑を塩害から守り、農作物の育成にも大きく寄与しています。

この集落の中にいるとさらに大きな恵みを感じることができます。それは、涼しさです。樹木には、周囲の気温を下げる力があります。樹木が地下水をくみ上げ、その水が無数の葉の気孔から空気中に放出されるときに、多量の気化熱が周囲から奪われます。水一㌘の気化によって六百㌍の熱を奪うと言いますから、備瀬のような大量な樹木による冷却効果は相当なパワーがある訳です。

こうした備瀬の自然環境が持つ力のすごさは、沖縄の有名な建物を見に行って、さらに印象深いものとなりました。その建物とは、建築的な工夫によって、室内に巧みに自然な風の流れを創り出し、クーラーの一切ない市役所として全国的に有名になった名護市庁舎です。ここは、備瀬から車で十分程度の距離ですから、この機会にぜひ見学しようと思い、寄ってみたのです。しかし、その建物は、当初の意図に反して、すべての風の取り入れ口はふさがれ、エアコンが稼働していました。

市庁舎の外の環境を備瀬と比較することで、この状況を納得することができました。備瀬では、エアコンなど必要ないほど涼しいのに、名護市庁舎の周りは暑いのです。

備瀬の集落と名護市庁舎とは、ほんの目と鼻の先程の距離なのに、明らかに気候条件が違います。こうした、建物の周辺環境の違いが創り出す、その場所特有の気候のことを「微気候」と言います。

備瀬の集落から学ぶべき点は、涼しくて、心地よい微気候を、私たちは、自分たちの手によって創り出すことが可能だということです。私たちは、快適な環境は、建物の工夫や設備機器によってのみ実現するものだと思い込んでいないでしょうか? 逆に、こうした外の環境に配慮しない住まいづくりの在り方が、クーラーなしではいられない不快な都市環境を創り出しているのです。

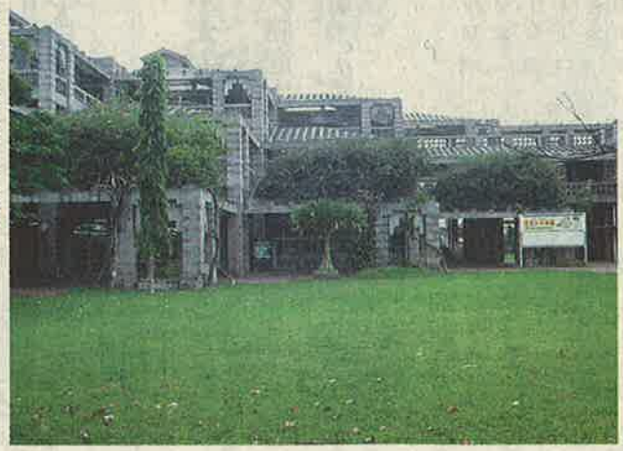
環境への配慮が大変重要となってきている昨今、私たちの個人個人の住まいから、この微気候のことを考え始めることが、私たちの街の環境を見直す重要な一歩になると思うのです。

（マーケティングコンサルタント）

外から見るとまるで森のように見える備瀬の集落

300軒もの家々が連なって、見事な防風林が形成されている

集落の中に入ってみると、とにかく涼しい



建築的な工夫によりクーラーに頼らないことを目指した名護市庁舎